

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経過

高松平野のはぼ中央を東西に横切る形で国道11号バイパス「高松東道路」の建設が決定されたことにより、当該予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて香川県教育委員会と建設省四国地方建設局香川工事事務所との間で協議がなされ、記録保存で対応することが決定した。

これを受けた香川県教育委員会では、当該用地内に所在する遺跡の範囲の確定を目的として、断続的ではあるが昭和61年12月から平成元年1月にかけて高松市上天神町から前田東町を対象として、3次にわたる試掘調査を実施した<sup>1)</sup>。

この試掘調査の結果、西から順に上天神遺跡、太田下・須川遺跡、林・坊城遺跡、六条・上所遺跡、東山崎・水田遺跡、前田東・中村遺跡の計6遺跡の範囲が確定された。

本調査は昭和62年11月から、香川県教育委員会が上天神遺跡の一部に着手したことに始まり、昭和63年度からは香川県教育委員会を調査主体として、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを調査担当として実施している。

香川県教育委員会と財団法人香川県埋蔵文化財調査センターは、昭和63年4月1日付けで「埋蔵文化財調査委託契約書」を締結し、前年度までに調査対象面積が確定していた上天神遺跡、林・坊城遺跡、六条・上所遺跡について発掘調査を実施することとなった。さらに昭和63年6月30日付けで「埋蔵文化財調査委託契約書の一部を変更する契約書」を締結し、東山崎・水田遺跡、前田東・中村遺跡の2遺跡の発掘調査が財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに追加委託されることとなった。

上記の経緯により、昭和63年4月1日から昭和63年11月30日の期間で、高松市林町に所在する林・坊城遺跡の本調査を実施した。

注1 『国道バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・試掘調査概報』  
香川県教育委員会（1987）  
『一般国道11号線高松東バイパス建設予定地内埋蔵文化財試掘調査報告』  
香川県教育委員会（1988）  
『一般国道11号高松東バイパス建設及び県営圃場整備に伴う埋蔵文化財試掘調査報告Ⅱ』  
香川県教育委員会（1989）

## 第2節 調査の経過

### 1. 発掘調査の経過

昭和63年度期間中の調査体制は、以下の組織表のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課			財団法人香川県埋蔵文化財調査センター		
総括	課長	廣瀬 和孝	総括	所長	田丸 秀明
	課長補佐	高木 尚		次長	小原 克己
	副主幹	野網朝二郎(6.1～)	総務	主査(事務)	加藤 正司
総務	係長	宮谷 昌之(～5.31)		主査(土木)	山地 修(6.1～)
	係長	宮内 憲生(6.1～)		主任主事	近藤 紀文
	主事	横田 秀幸(6.1～)		参事	前田 舞男
	主事	水本久美子	調査	係長	廣瀬 常雄
埋蔵文化財係長		大山 真充		文化財専門員	廣瀬 直樹
	主任技師	安藤 清和		主任技師	牧野 啓造
	技師	國木 健司		主任技師	植松 邦浩
				主任技師	鍋井 一視
				技師	渡邊 茂智
				技師	中野 昇一
				技師	磯崎 寛
				技師	嶋村 友子
				技師	北山健一郎
				技師	森 格也
				技師	稲田美穂子
				技師	古野 徳久
				技師	蔵本 晋司
				技師	宮崎 新治
				調査技術員	秋山 成人
				調査技術員	山本 健
				調査技術員	藤川 京子
				調査技術員	欠野 徹
				調査技術員	日下 弥生
				調査技術員	吉原 明美
				調査技術員	西中 一伸
				調査補助員	田村 久雄

調査の方法であるが、調査対象地は東西に細長く延びており、複数の市道・私道と用水路が調査対象地を横断していることを考慮して、それらの道路や用水路を境としてA～Gの調査区を設定した。さらに調査区によっては農業用の用水路等が存在しており、現地形を考慮しつつ2～3区の少区画を設定して調査を実施している。(第3図)

調査の基準となる杭は、「高松東道路」建設予定地のセンターライン上に20m間隔で打設し、基準点測量を行なった。さらに航空測量の際に杭の基準点測量も行ない、国土座標との対応をはかっている。

発掘作業は、昭和63年4月1日から11月30日まで実施した。発掘作業の経過については、以下に調査日誌抄を掲げる。

#### 調査日誌(抄)

(昭和63年4月)

今年度は国道事業の各遺跡の調査開始時期が異なるため、すべての調査員・作業員を使って林・坊城遺跡の調査が始められた。

1日 調査資材を国道事業調査事務所に搬入する。調査は、C1地区の表土剥ぎから開始する。

18日 C3地区の表土剥ぎを開始する。

19日 C2地区の表土剥ぎを開始する。

28日 C3地区遺構面精査。溝状遺構を検出する。基本土層は、Ⅰ層暗灰色粘質土(耕作土)・Ⅱ層黄褐色粘質土(床土)・Ⅲ層明黄色粘土(地山)であり、Ⅲ層の上面が遺構面となっている。

(5月)

専門職員が調査に加わり、一気に調査区が展開を見た。好天にも恵まれ調査は進んだ。

6日 A地区の表土剥ぎを開始する。

9日 B地区の表土剥ぎを開始する。

11日 63年度採用の専門職員5人が初任者研修を終えて調査に参加する。

16日 B地区で自然河川を検出する。

18日 D1地区の表土剥ぎを開始する。

23日 D2地区の表土剥ぎを開始する。

25日 A地区の写真撮影・実測図面作成を行ないA地区の調査を終了する。D3地区の表土剥ぎを開始し、自然河川を検出する。

30日 E1地区の表土剥ぎを開始する。D3地区から続く自然河川を検出する。

(6月)

前半は好天が続いたが後半は一転して雨が多くなり、調査区内の排水作業に追われて作業がはかどらない。

1日 D3地区で精査を行ない、自然河川の西肩を確認する。流路部分の掘り下げにともなって弥生前期土器・石器が出土する。

7日 D1地区で溝状遺構等を検出する。

13日 C地区の写真撮影・実測作業が進む。

14日 D2地区のSX03の掘り下げを開始する。弥生後期土器が多数出土する。

23日 C地区の調査を終了し、埋め戻しを開始する。

29日 D2地区のSX03の土器出土状況の実測図面を作成。

30日 D1地区の写真撮影・実測図面作成も終わり、D1地区の調査を終了する。

(7月)

上旬は雨が多く、さらに国道事業の3遺跡の調査の開始により調査員・作業員が減り作業が停滞気味となる。中旬以降は天気には恵まれたが蒸し暑さに悩まされながらの調査が続いた。

1日 作業員を増員する。B地区の西半の調査を終了し、引き続いて東半の調査を開始する。C4地区の表土剥ぎを開始する。

5日 梅雨明け宣言が出るが、これ以後蒸し暑さが付きまとう。E1地区の自然河川を掘り下げる。弥生土器が出土する。

8日 毎日新聞・四国新聞の取材を受ける。D3地区の自然河川の黒色粘土(下層)を掘り始める。植物遺存体とともに縄文晩期土器が出土する。

13日 突発的な豪雨によって用水路からあふれた雨水が調査区に流れこみ、D3・E1地区は完全に水没した。排水作業が追い付かず現状の復旧に10日程を費やした。

22日 B地区東半の調査区を拡張して遺構検出を始める。弥生前期土器を含んだ溝状遺構を検出する。D3地区の自然河川から縄文時代晩期の諸手鎌が出土した。

23日 G地区の表土剥ぎを開始する。

27日 C4地区の調査を終了し埋め戻す。

28日 教育長が現場視察のため来訪する。D3地区の自然河川で柄付半截木製品が出土する。

E1地区の自然河川の下層から弥生前期土器が出土する。

(8月)

縄文時代晩期の木製農具の出土によってマスコミの取材が殺到し、その対応に追われながらも調査は順調に進んだ。

1日 B地区東半の実測作業も終わり、B地区の調査を終了する。D3地区の自然河川では多数の自然木とともに小型鋤状木製品などが続いて出土した。

4日 D3地区の木製品の出土状況の実測をしながら、木製品の取り上げを開始する。

5日 D3地区でえぶり木製品が出土する。奈良県立橿原考古学研究所の石野博信氏が来訪。F地区の表土剥ぎを開始する。

9日 高松市教育委員会の藤井雄三氏来訪。

10日 NHK等のテレビ、朝日・毎日・四国新聞の取材を受ける。E1地区を拡張する。

18日 九州大学・早稲田大学の学生来訪。

26日 岡山県古代古備埋蔵文化財調査センターの平井勝氏他来訪。D3地区を拡張する。

27日 茨木市教育委員会から4名来訪。E1地区の調査を終了する。

29日 E2地区の表土剥ぎを開始する。F地区の遺構検出が進む。

31日 四国新聞の取材を受ける。

(9月)

残暑は厳しいが取材攻勢も一段落し、全体に落ち着いて調査が進んだ。西半部の調査は終わり、中心は東半部へ移った。新たに前田東・中村遺跡の調査が開始し調査員が減った。

- 2日 G地区の遺構検出を開始する。
- 5日 調査事務所の移転が完了する。
- 7日 D3地区の拡張区で小型鋤状木製品が出土した。
- 12日 F地区の実測図面作成が終了し、下層確認トレンチを掘り始める。
- 23日 D3地区を北方へも拡張する。
- 28日 G地区の遺構の掘り下げが進む。遺物はきわめて少ない。
- 30日 F2・3、G1地区の埋め戻しを開始する。

(10月)

東山崎・木田遺跡の調査が始まり、さらに調査員・作業員が減ったが、東半部の調査も峠を越したため特に影響はなく調査は進んだ。

- 3日 D2地区の南拡張区で遺構検出を開始しSX03の南端を検出した。C5地区の表土剥ぎを開始する。G3地区の調査を終了した。
- 4日 弘福寺領田岡等遺跡調査検討会の工業善通氏来訪。F3地区の調査を終了する。
- 5日 奈良国立文化財研究所の工業善通氏・上原真人氏来訪。
- 11日 C5地区・F1地区の調査を終了する。
- 17日 筑波大学の山田昌久氏来訪。D2地区に下層確認トレンチを掘る。D3地区の拡張区の調査が進む。
- 19日 D3地区の平面実測が終了する。
- 27日 奈良国立文化財研究所の町田章氏来訪。

(11月)

本遺跡の調査も残すところD2・3地区のみとなり、「終わり善ければすべてよし」の格言を思い起しつつ調査に励む。

- 1日 D2地区のSX03の下層確認を開始する。
- 2日 D3地区の仮設道の下の掘り下げを開始する。
- 4日 口酒井遺跡調査会の浅岡俊夫氏・大阪法経大学の橋本久氏来訪。
- 7日 立命館大学の家根祥多氏来訪。
- 9日 D3地区の北拡張区の最下層で異形土器が出土する。
- 17日 四国新聞の取材を受ける。
- 18日 実測図面の作成を終了する。
- 19日 ヘリコプターを使って空中写真撮影を行なう。
- 28日 D3地区の自然河川の土層断面の剥ぎ取りを行なう。同時にプラントオーバー分析用の資料を採取する。
- 29日 D2・D3地区の埋め戻しを行ない、林・坊城遺跡の調査を終了する。

—発掘調査に従事した方々—

井口 義行	石浜 喜一	植田 三良	内海 廣文
大澤 政道	大森 正智	岡 章	乙武 孝男
柏原 巧	柏原 義明	加藤 直雄	亀井 正博
久保 重男	久保 竹義	見藤 信雄	河野 敏文
小松 定一	佐々木英二	篠原 密夫	杉山 悟
十河 英徳	田窪 勝	谷 繁男	谷友 栄
筒井 修	中井 秋義	長柄 稔	長尾 貞義
中山 祐弘	平田 弘	藤井 清	細谷 祐義
本田 昌男	松崎 稔	松本 照雄	宮井 肇
三宅 健三	宮脇 満利	三好 俊二	森 敏雄
森安 力	山下 静男	山本登美男	山地 秋男
吉峰 茂	柳萬 信夫	朝日 悦子	阿河 静子
飯尾 秀子	井口夫美子	井上 初子	出石真理子
井上ユキノ	上野キミ子	太巻 房子	内海 花子
大川 玲子	大熊 智子	大西 君子	大西ミネ子
大山 敏子	岡田 春野	乙武 文江	小原ヒサエ
亀井イシノ	鎌野キクエ	川西 鈴子	河原みち子
川東ミツ子	楠原ひとみ	国方テル子	久保キミ子
黒川 陽子	鎌島アキ子	鎌島美智子	佐々木由美子
佐藤 安子	白石 和美	四宮トヨコ	十河 貞子
十河 信子	十川 芳子	高橋三千代	高橋 光子
竹林 弘子	竹下 雪江	竹田キヨ子	田中 キヨ
谷川 幸子	佃 和子	辻 洋子	津村登志子
時末 宣子	中川 幸子	中西 弥生	中村サダ子
中村 芳子	鯉越 静代	西谷 政江	二宮 照子
畑田 静江	草岡 利子	平尾 文子	平田 圭子
平田ツヤ子	平野理恵子	福家 タミ	別枝由美子
本田 貞子	米谷 昭子	松上 初子	松本 和子
湊 トシミ	溝淵久美子	三好ちづる	三好 モト
村井サダ子	元木佳庸子	森口すえの	森田 朱實
森本シヅ子	矢野 蛭峨	山田 君子	吉川 久枝
吉田かず代	吉田 絹代	吉田千代子	吉本みどり
吉峰美恵子	脇 千代江		

大嶋和彦（京都教育大学学生）

神保美智子（徳島文理大学学生）

## 2. 整理作業の経過

平成3年度期間中の整理体制は、以下の組織表のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課			財団法人香川県埋蔵文化財調査センター		
総括	課長	中村 仁	総括	所長	松本 豊胤
	主幹	菅原 良弘		次長	安藤 道雄
	課長補佐	小原 克己(6.1～)	総務	係長(事務)	加藤 正司(～5.31)
	副主幹	野瀬朝次郎(5.31～)		係長(事務)	土井 茂樹(6.1～)
総務	係長	宮内 憲生		主任主事	黒田 晃郎
	主任主事	横田 秀幸(～5.31)	整理担当	係長	真鍋 昌宏
	主事	桜木 新士(6.1～)		技師	宮崎 哲治
	主事	石川恵三子			
埋蔵文化財	係長	藤好 史郎			
	主任技師	岩橋 孝			
	主任技師	北山健一郎			

平成4年度期間中の整理体制は、以下の組織表のとおりである。

香川県教育委員会事務局文化行政課			財団法人香川県埋蔵文化財調査センター		
総括	課長	中村 仁	総括	所長	松本 豊胤
	主幹	菅原 良弘		次長	市原 敏則
	課長補佐	小原 克己	総務	係長(事務)	土井 茂樹
総務	係長	宮内 憲生(～5.31)		主任主事	黒田 晃郎(～5.31)
	係長	源田 和幸(6.1～)		主任主事	大西 健司(6.1～)
	主事	桜木 新士	整理担当	係長	廣瀬 常雄
	主事	石川恵三子		技師	宮崎 哲治
埋蔵文化財	係長	藤好 史郎			
	主任技師	國木 健司			
	主任技師	北山健一郎			

整理作業は平成3年8月1日から平成4年9月30日まで実施した。整理作業の経過については第1表にまとめて掲げる。

第1表 整理作業工程表

平成3年					平成4年								
8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
基礎整理													
		実測							遺物トレース				
							遺物実測図レイアウト						
								遺構実測図レイアウト		遺構トレース			
									観察表				
									遺物写真撮影				
									原稿執筆・編集				

—整理作業に従事した方々—

大沢多鶴子

大田 和子

藤堂 取子

若山 淳子

西山佳代子

村山 文子

石原まり子

小畑三千代

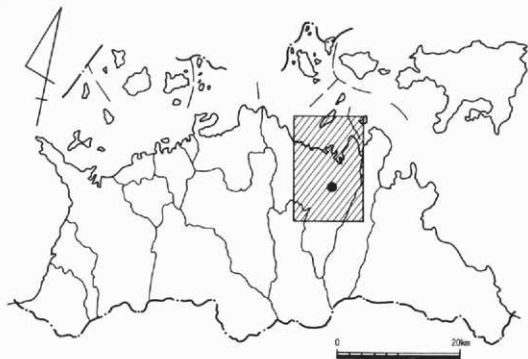


## 第2章 立地と環境

### 第1節 地理的環境

高松平野は、東を立石山・雲附山・五瀬山山地、南を由良山山地、西を五色台・堂山山地に取り囲まれた平野で、北は備讃瀬戸をはさんで岡山県と相對しており、東西約12km、南北約10kmの広がりを持っている。平野西部には本津川・香東川、平野東部には春日川・新川が流れているが香東川、春日川、新川のいずれもが近世に改修され、河口付近の流れを変えられている。高松平野の中央部の海寄りに独立丘陵である石清尾山山地が存在しており、高松平野第一の河川である香東川は現在は石清尾山山地の西側を流れているが、本来は東側を流れていたと考えられている。高松平野の南部は、由良山山地から連続する段丘状地形が発達し、その先端の緩扇状地形を経て氾濫平野・河口の三角州へと続いているため、南から北に向かって緩やかに傾斜している。凹凸の少ないなだらかな傾斜の続く地形をしているため、条里地割による方格地割を今に伝える水田などの地割りが広がっている。

林・坊城遺跡は高松平野のほぼ中央部に位置し、遺跡の周辺には方格地割が比較的良好な形で残っている。



第1図 林・坊城遺跡位置図

## 第2節 歴史的環境

本遺跡の立地する高松平野は、遺跡の多い地域として古くから知られてきた。周知の遺跡が分布しているのは、高松平野東部から南部にかけての平野と丘陵が接する部分の丘陵上と、高松平野北西に位置する石清尾山塊に集中しており、高松平野の中央部については遺跡の分布はほとんど知られていなかった。しかし、当センターや高松市教育委員会によって平野の中央部でも発掘調査が行なわれており、平野中央部にも多くの遺跡が存在することが確認されている。特に、国道11号線のバイパスである高松東道路建設に伴う発掘調査と、旧高松空港跡地の開発に伴う発掘調査は、高松平野中央部における初めての大規模な発掘調査である。高松東道路建設に伴う発掘調査は平野を東西に横断する大きなトレンチのような線的なもので、遺跡の立地のみならず高松平野の形成と変遷にまで迫るものであり、また、旧空港跡地の開発に伴う発掘調査は面的な調査で、遺跡の広がりなどに迫るものであるといえる。これらの発掘調査は、幾つもの新知見をもたらしているが、高松平野中央部の研究はまだまだ緒に就いたばかりといえよう。林・坊城遺跡で検出した遺構の時期を中心として、時代別に概観してみる。

### 旧石器時代・縄文時代

旧石器時代および縄文時代の遺跡は極端に少なく、旧石器時代の事例としては兩山南遺跡<sup>2)</sup>で国府型ナイフ形石器が採集されており、平野中央部の大池遺跡で有舌尖頭器が採集されている。新しく見つかったところでは高松平野西部の中間・西井坪遺跡<sup>3)</sup>で四国横断自動車道（高松～善通寺間）建設に伴う発掘調査で、ある程度まとまって旧石器が出土している。高松東道路関連の調査では東山崎・水田遺跡で有舌尖頭器が出土している。

縄文時代は前期の下可遺跡、後期の三谷三郎池遺跡、晩期末と考えられる光寿寺山遺跡など、高松平野南部の山麓地帯の遺跡が知られていた。当センターが調査した前田東・中村遺跡で注口土器を含んだ後期の土器が自然河川から出土し、さらに晩期の土坑・柱穴から凸帯文土器がわずかに出土しているが、この遺跡も高松東部の山麓地帯に位置している。今回報告する林・坊城遺跡は遺構こそ見つかっていないものの、自然河川から晩期末の土器がまとまって出土している。土器とともに木製農具が出土しており、近接地に集落の存在が予想される。高松市教育委員会が調査した居石遺跡でも自然河川から原下層式併行の土器が出土したという。ともに高松平野中央部に立地する遺跡であり、今後も平野中央部で晩期を中心とした遺跡の発見例が増加することが予想される。

### 弥生時代

弥生時代の遺跡であるが、前期・中期に属する遺跡は少なく、後期に属する遺跡が圧倒的に多い傾向を示している。

前期の遺跡は平野中央部に位置する天満・宮西遺跡や浴・長池Ⅱ遺跡、山麓部に位置する諏訪

神社遺跡、光専寺山遺跡などがあげられる。天満・宮西遺跡では環濠が検出され、浴・長池Ⅱ遺跡では前期と考えられる小区画水田が検出されている。諏訪神社遺跡でも環濠と考えられる溝状遺構が検出されている。また、当遺跡でも溝状遺構・土坑を検出している。

中期の遺跡はこれまでほとんど知られておらず、わずかに石清尾山山頂の摺鉢谷遺跡<sup>3</sup>、平野東部の低丘陵上の久米池南遺跡、平野南部山麓地帯の中山田遺跡などがあるにすぎなかった。近年の高松市教育委員会による調査で平野中央部に位置する凹原遺跡、浴・長池Ⅱ遺跡、井手東Ⅰ遺跡、当センターが調査した前田東・中村遺跡で、中期の遺構が検出されている。凹原遺跡では中期中頃の堅穴住居跡が1棟検出されており、石器製作の場にも利用されていたことが判明している。浴・長池Ⅱ遺跡でも堅穴住居跡が検出されており、井手東Ⅰ遺跡では溝状遺構から櫛描文を中心とする土器群とともに、鎌・鋤といった農耕具、弓、琴などの木製品が出土している。前田東・中村遺跡では中期後半の方形周溝墓を1基検出している。中期の遺跡の動向については、今後の平野部での調査に期待される所が大きい。

後期に入ると遺跡の数ははるかに増加する。山麓部に位置する遺跡としては大空遺跡、南谷遺跡、葛谷遺跡<sup>4</sup>、三谷三郎池遺跡、三谷通谷遺跡、円養寺遺跡<sup>5</sup>などがあげられるが、発掘調査が実施された遺跡は少なく、内容のわからない遺跡が多い。大空遺跡は一辺1m程の土坑から40点余りの完形土器が出土しており、北四国における弥生時代後期初頭の標識遺跡として著名な遺跡である<sup>6</sup>。南谷遺跡では後期土器とともに多量の製塩土器片が採集されている。三谷通谷遺跡と円養寺遺跡は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての墳墓が確認されている遺跡である。平野中央部でも、当センターと高松市教育委員会による発掘調査で後期の遺跡の存在が確認されてきている。上天神遺跡は堅穴住居跡を中心とする遺構群を検出しており拠点集落のひとつである可能性が高い遺跡である。太田下・須川遺跡でも堅穴住居跡を数棟検出しており、自然河川から鹿の線刻のある土器片が出土している。居石遺跡では自然河川の川岸から弥生時代終末の3面の小型仿製鏡が出土しており、水辺の祭祀との関連が想定されている。凹原遺跡では微高地上に14棟の堅穴住居跡が検出されている。前田東・中村遺跡では「周溝墓」と考えられる溝状遺構を検出しており、自然河川から多量の土器が出土している。当遺跡でも陸橋部を持った後期後半の円形周溝状遺構を1基検出している。空港跡地遺跡では堅穴住居跡をはじめとして、円形・方形や前方後方形などの周溝状遺構を検出している。

## 古墳時代

古墳時代では、積石塚で著名な石清尾山古墳群をはじめとする古墳が多く知られているのに対して、集落遺跡はほとんど知られていない。今後、平野中央部での調査が進むにつれて集落遺跡も検出されるものと思われる。

前期から中期にかけての古墳は平野の縁辺部の丘陵上に立地する。平野北西部の石清尾山山塊上には2基の双方中円墳（猫塚・鏡塚）・9基の前方後円墳（北大塚・石船塚・稲荷山姫塚・姫

塚・鶴尾神社4号墳・摺鉢谷9号墳など)の積石塚に10数基の円墳・方墳を加えた大古墳群である石清尾山古墳群が所在し、平野東部では前方後円墳である高松市茶臼山古墳が低丘陵の頂部に立地している。平野南部においては丘陵上に船岡山古墳や三谷石船古墳が築かれている。他にも円墳をはじめとする多数の古墳が築かれているが、いずれも丘陵上や山麓に立地している。このような傾向を示す中で、平野の中央部の海岸近くに1基のみで所在する、小規模な円墳の白山神社古墳は特異な存在といえよう。

後期になると横穴式石室を主体部にもつ小型の円墳が群集して出現してくる。先述した石清尾山古墳群のうち大半は横穴式石室墳で、山麓から山頂にかけての各所に見ることができる。これらの小規模な横穴式石室墳は南山前古墳群・浄願寺山古墳群というようにいくつかの支群に分かれる。数では他の古墳群を圧倒する石清尾山古墳群ではあるが、小規模な横穴式石室をもつものが多く、巨大な石室を主体部とする古墳は見られない。平野の東縁部には山下古墳・久本古墳・小山古墳(消滅)といった巨大な横穴式石室をもつ古墳が集中している。これらの巨大な石室墳は古墳時代終末期に築かれたものであろう。また、滝本神社古墳は平面形態がT字形の石室を持っており注目される。この地域にも古墳群は存在しているが数基単位で古墳群を形成しており、大規模なものは見られない。平野南部にも大型の横穴式石室をもつ矢野面古墳をはじめとして、いくつかの古墳の存在が知られているが、数基単位の小さな古墳群が散在しているにすぎない。

集落遺跡はほとんど知られていないが、当センターが発掘調査した平野中央部の六条・上所遺跡では5世紀の堅穴住居跡から陶質土器とともに韓式土器が出土しており、集落がこの辺りに広がっている可能性を示している。また、前田東・中村遺跡では自然河川から古墳時代前期の土器とともに木樋・弓・斧柄・木鐘などの多量の木製品が出土していることから、周囲に集落の存在が想定される。他にも高松市教育委員会が発掘調査した天満・宮西遺跡や凹原遺跡などでも集落遺構が検出されており、今後発掘調査が進むにつれて多くの集落遺跡が検出されることであろう。

## 古代

古代の遺跡では前田東・中村遺跡で大きな規模をもつ掘立柱建物群を検出しており、さらに帯金具・墨書土器・緑釉陶器などといった出土遺物から官衙的な役割を有していた可能性を指摘している。現在、当センターにおいて整理作業が進められており、今後の研究に期待は大きい。高松市教育委員会が発掘調査した松縄・下所遺跡では7世紀中頃～8世紀後半までの幹線道路状遺構を検出しているという。高松平野の条里制施行に何らかの形で関わっているものであろう。高松平野の土地利用については、天平7年(735)に描かれた「弘福寺鎮護岐山国山郡田園」が残されており奈良時代の村落の状況をうかがうことができる。この田園に描かれた地域は当遺跡の西方一帯に比定されると考えられており、現在も高松市教育委員会によって発掘調査が進められている。高松平野は現在でもほぼ全域に方格地割が認められる地域であり、今後の研究が待たれ



第2図 周辺の遺跡分布図

第2表 林・坊城遺跡周辺の遺跡一覧表①

順	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備考	附録
1	鷲ヶ峰遺跡	高松市女木町	散布地		製塩土器		
2	女木丸山古墳	高松市女木町	古墳	円墳 直径15m 築成時期	銅鐙・銅鏡・土器・土師器	1964年発掘	10・18
3	高松城跡	高松市玉藻町	近世			1990年発掘	13・27
4	下ノ山遺跡	高松市西宝町	弥生	(青銅器埋納地)	広形銅矛2丁	1982・83年発掘	11
5	摺鉢谷9号墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳 径27m 6段		86年発掘	5・16・23
6	北大塚古墳	高松市宮脇町	古墳	前方後円墳 径40m 6段	土師器	86年発掘	5・16・23
7	鏡塚古墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳 径70m 9段		86年発掘	5・16・23
8	石船塚古墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳 径57m 8段	土師器 須賀	86年発掘	5・16・23
9	孫塚古墳	高松市鶴市町	古墳	前方後円墳(石室) 径96m	土師器・土師器・土師器・土師器・土師器・土師器・土師器・土師器	86年発掘	5・16・23
10	姫塚古墳	高松市峰山町	古墳	前方後円墳 径43m		86年発掘	5・16・23
11	観音寺古墳	高松市西春日町	古墳	前方後円墳 径47m 9段	土師器・土師器	86年1970・81年発掘	9・10・23
12	観音寺古墳	高松市宮脇町	古墳	前方後円墳 径58m	土師器	86年発掘	5・16・23
13	幡畑遺跡	高松市西春日町	古墳	円墳		50基程度	10
14	南山詣古墳群	高松市西春日町	古墳	小円墳 横穴式石室	土師器・土師器・土師器・土師器	13基程度	10・12
15	ガメ塚古墳	高松市飯田町	古墳	前方後円墳		消滅	
16	長崎鼻古墳	高松市屋島東町	古墳	前方後円墳 径33m 9段	土師器・土師器(銅?)		10・23
17	涌生遺跡	高松市屋島西町	古墳			製塩遺跡	
18	屋島城跡	高松市屋島西町	古代	石塁・水門跡		1980年発掘	23・25
19	浜北古墳群	高松市屋島西町	古墳			1980年発掘	
20	中筋北古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳 組合式石棺			
21	観音寺古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳 横穴式石室		1968年消滅	
22	観音寺古墳	高松市屋島西町	古墳	円墳 横穴式石室			
23	湯の谷古墳群	高松市屋島東町	古墳	円墳			
24	丸山遺跡	木田郡庵治町	弥生		中細形銅鐙1口		
25	大空遺跡	高松市高松町	弥生	土坑	弥生土器・製塩土器	1951年発掘	10・17
26	大空遺跡	高松市高松町	弥生		弥生土器	1955年発掘	
27	南谷古墳	高松市高松町	古墳	円墳	須恵器平皿	消滅	
28	南谷遺跡	高松市高松町	弥生		弥生土器・製塩土器	1976・1987年発掘	10・21
29	長尾古墳群	高松市高松町	古墳	円墳 横穴式石室			
30	小山古墳	高松市新田町	古墳	横穴式石室(石室)	須恵器長頸甕	1950年消滅	21
31	石塚古墳	高松市新田町	古墳	円墳 横穴式石室	円筒埴輪	消滅	
32	山下古墳	高松市新田町	古墳	横穴式石室		1987年発掘	7・10・23
33	岡山小古墳群	高松市新田町	古墳	小円墳		15基程度	
34	岡山古墳群	高松市新田町	古墳	小円墳 横穴式石室		1980年発掘	3
35	丸山古墳	高松市新田町	古墳			消滅	
36	大谷山古墳	高松市新田町	古墳			消滅	
37	久木古墳	高松市新田町	古墳	円墳 直径6m 6段	土師器・土師器・土師器	1975年発掘	10・22・23
38	観音寺古墳	高松市新田町	古墳	円墳 組合式石棺			
39	諏訪神社古墳	高松市東山崎町	銅~鉄	横穴式石室3基	土師器・土師器	1990年発掘	30

第3表 林・坊城遺跡周辺の遺跡一覧表②

順	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備考	記録
40	久米山古墳群	高松市東山崎町	古墳	円墳		G基程度	
41	久米池南遺跡	高松市新田町	弥生	竪穴式・横穴式・土器	銅器・土器・石器・土器	1987～88年度	15
42	藤原池遺跡	高松市前田西町	古墳	竪穴式 径75m 石段・土器	横穴式石室・土器・土器 土器・土器・土器	1969年度	4・10・23
43	茶臼山古墳群	高松市東山崎町	古墳	円墳		5基程度	
44	北山古墳	高松市新田町	古墳	円墳 径20m 土器		1972年度 調査	
45	滝本神社古墳	高松市前田西町	古墳	横穴式(7号)		99年度調査	
46	田楽古墳	高松市前田西町	古墳	円墳 横穴式石室			
47	金石山1号墳	高松市前田西町	古墳	円墳 箱式石棺			
48	金石山2号墳	高松市前田西町	古墳	円墳 横穴式石室			
49	平尾1号墳	高松市前田西町	古墳	円墳 横穴式石室			
50	平尾2号墳	高松市前田西町	古墳	円墳 横穴式石室			
51	宝寿寺跡	高松市前田西町	白鳳	礎石	瓦		
52	平尾3号墳	高松市前田東町	古墳	円墳 横穴式石室			
53	平尾4号墳	高松市前田東町	古墳	円墳 横穴式石室			
54	平尾小古墳群	高松市前田東町	古墳	小円墳 横穴式石室		10基程度	
55	山本古墳	高松市前田東町	古墳	円墳			
56	白山神社古墳	高松市木太町	古墳	円墳		1965年度	
57	瓦・土器	高松市松岡町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1989年度	24・29
58	松岡下遺跡	高松市松岡町	古代	土器・土器・土器	須恵器	1991年度	24
59	大池遺跡	高松市木太町	旧石器		有石尖頭器	採集	
60	上天神遺跡	高松市上天神町	弥生	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1987・88・91・92年度	27・28・32
61	畑下遺跡	高松市大田下町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1989年度	29・30・33
62	居石遺跡	高松市伏石町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1991年度	24
63	井手東1遺跡	高松市伏石町	新石器	溝状遺構	土器・土器・土器	1991年度	24
64	居石遺跡	高松市伏石町	新石器	土器・土器・土器	土器	1991年度	24
65	岩・長池遺跡	高松市林町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1989・1990年度	29
66	居石遺跡	高松市林町	新石器	土器・土器・土器	土器	1990年度	30
67	林・坊城遺跡	高松市林町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1989年度	28・32
68	居石遺跡	高松市六条町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1988・90年度	28・32・35
69	居石遺跡	高松市東山崎町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1988年度	28・32・36
70	居石遺跡	高松市前田東町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1988・89・90・91年度	28・30 ・32～35
71	権八原遺跡	木田郡三木町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1980・81年度	10
72	田原遺跡	高松市多肥下町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1990・91年度	24・30
73	空港跡地遺跡	高松市林町	新石器	土器・土器・土器	土器・土器・土器	1991～2000年度	30・31・34 ・35
74	拝師虎寺	高松市上林町	奈良				
75	田村神社遺跡	高松市一宮町	弥生		弥生土器	採集	2
76	船岡山古墳	香川県香川町	古墳	竪穴式 径51m		1977年度	8・10・23

第4表 林・坊城遺跡周辺の遺跡一覧表③

番号	遺跡名	所在地	時代	主な遺構	主な遺物	備考	材質
77	舟岡古墳	香川郡香川町	古墳	環? 郭? 環?		特 環? 環?	
78	若宮神社古墳	高松市川郡町	古墳	横穴式石室			
79	佐賀神社古墳	香川郡香南町	古墳	横穴式石室			
80	横岡山古墳	香川郡香川町	古墳	横穴式石室	須恵器・鉄釘・銅環	平塚	3
81	東赤坂古墳	香川郡香川町	古墳	環 径30m 郭? 環?	須恵器		
82	八王子古墳	香川郡香川町	古墳	横穴式石室	環? 環? 環? 環? 環?	1973年調査	20
83	万塚古墳群	香川郡香川町	古墳	郭? 郭? (環? 環?)	環? 環? 環? 環?	1971年調査	19
84	南山南古墳	高松市三谷町	古墳	環 径10m 郭? 環?	馬具		
85	野田古墳	高松市三谷町	古墳				
86	平石上1号墳	高松市三谷町	古墳	円墳 直径20m		1987年調査	
87	平石上2号墳	高松市三谷町	古墳			1986年調査	
88	南山1号墳	高松市三谷町	古墳	環? 環? 径27m 郭? 環?	環? 環? 環? 環?		1
89	南山2号墳	高松市三谷町	古墳	円墳 径10m			
90	矢野面古墳	高松市三谷町	古墳	横穴式石室		平塚	
91	三浦古墳	高松市三谷町	縄文		縄文土器	採集	
92	三浦古墳群	高松市三谷町	古墳	意力塞	須恵器	1983年調査	26
93	三浦古墳群	高松市三谷町	古墳	円墳 横穴式石室	環? 環? 環? 環?	1989年～ 調査?	24
94	三谷石新古墳	高松市三谷町	古墳	環? 環? 径90m 郭? 環?	環? 環? 環? 環?		10・23
95	高野丸山古墳	高松市川島本町	古墳	環 径60m 環	円筒埴輪	1987年調査	1
96	高野南古墳群	高松市川島本町	古墳				
97	光尊寺遺跡	高松市池田町	弥生	環? 環?	弥生土器・石器	1983年調査	10・23
98	中山田遺跡	高松市西植田町	弥生	環? 環? 環? 環? 環?	環? 環? 環? 環?	1977年調査	10・23
99	植田遺跡	高松市西植田町	古墳	円墳 横穴式石室	環? 環? 環? 環?	1977年調査	10
100	三浦古墳	高松市三谷町	弥生	円形埴輪・土棺墓	土棺	1974年調査	6
101	三浦古墳群	木田郡三木町	弥生		弥生土器		14

※表の番号は第2図の番号と対応する



るところである。

#### 中世・近世

中世・近世の遺跡としては、城跡や城館跡などが知られているが、集落遺跡としては当センターが発掘調査した東山崎・水田遺跡がある。掘立柱建物跡群や井戸などを検出したが、なかでも掘立柱建物跡を囲繞するかたちで検出した溝状遺構は、近世の屋敷跡の可能性がある。前田東・中村遺跡では掘立柱建物跡を検出している。

高松市の中心街には、天正16年(1588)に生駒親正によって築城された高松城跡が所在している。この高松城の城下町として高松市は発展してきたのである。

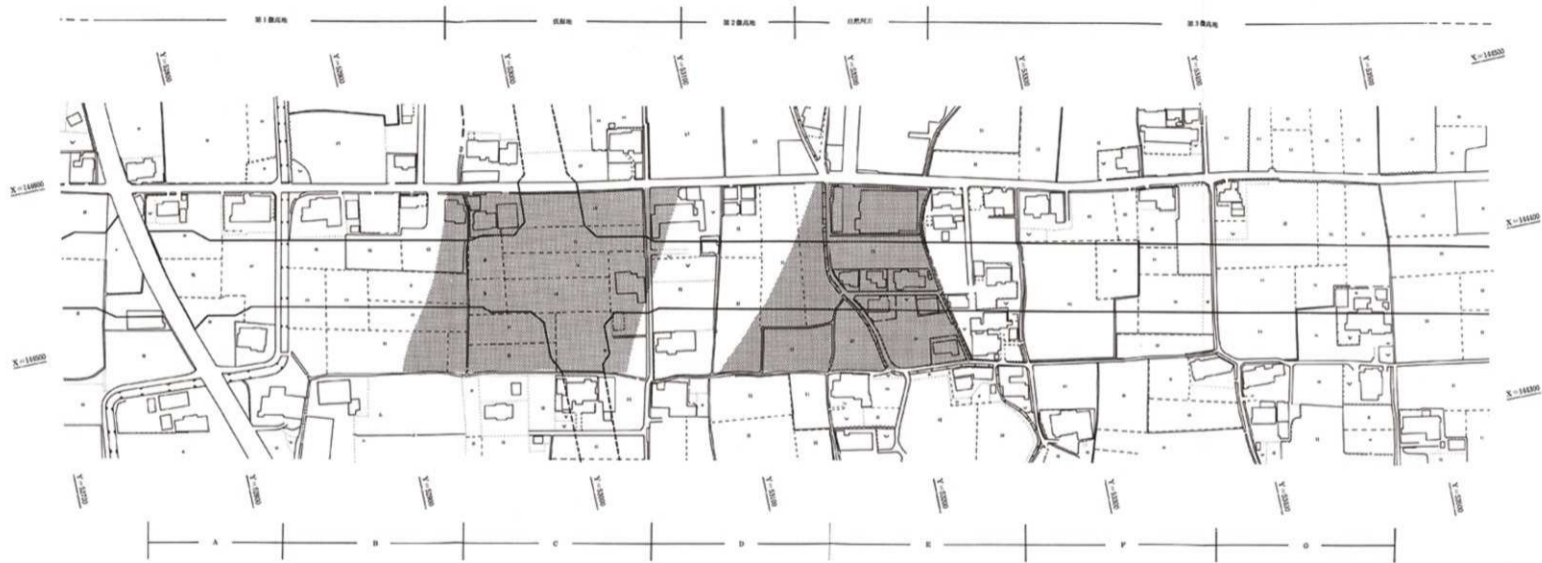
#### 註

- 1) 藤井雄三「兩山南遺跡」『香川考古 創刊号』香川考古刊行会 1983
- 2) 参考文献 30・34
- 3) 参考文献 5
- 4) 参考文献 10・26
- 5) 『高松市円養寺遺跡調査概報』円養寺遺跡発掘調査団 1971
- 6) 小林行雄・杉原莊介編『弥生式土器集成』(本編1)1968
- 7) 弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地発掘調査は1988年から継続的に行なわれ、すでにその成果が概報として発表されている。  
『弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地域発掘調査概報Ⅰ』高松市教育委員会 1988  
『弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地域発掘調査概報Ⅱ』高松市教育委員会 1989  
『弘福寺領讃岐国山田郡田岡比定地域発掘調査概報Ⅲ』高松市教育委員会 1990

#### 参考文献

- (1) 『木田郡史』1940
- (2) 『一宮村史』1965
- (3) 『香川郡史』1970
- (4) 『高松市茶臼山古墳緊急発掘調査概報』香川県教育委員会 1970
- (5) 『石清尾山塊古墳群調査報告』高松市教育委員会 1973
- (6) 『高松市三谷通谷遺跡調査概報』高松市教育委員会 1974
- (7) 『高松市・山下古墳調査報告』香川県教育委員会 1980
- (8) 『香川町・船岡山古墳調査報告』香川県教育委員会 1980
- (9) 『鶴尾神社4号墳調査報告書』高松市教育委員会 1983
- 00 『新編・香川叢書考古篇』香川県教育委員会 1983

- 01 『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館 1983
- 02 『南山浦古墳群調査報告書』高松市教育委員会 1985
- 03 『高松城東ノ丸跡発掘調査報告書』香川県教育委員会 1987
- 04 『香川県史』第1巻 原始・古代 1988
- 05 『久米池南遺跡発掘調査報告書』高松市教育委員会 1989
- 06 梅原未治『讃岐高松石清尾山石塚の研究』  
京都帝国大学文学部考古学研究報告第12冊 1933
- 07 竺林 徳『高松市高松町すべり山出土弥生式遺物報告書』1955
- 08 森井 正「高松市女木島丸山古墳」  
『香川県文化財調査報告第8』香川県教育委員会 1966
- 09 中原耕男「万塚古墳発掘調査報告」  
『文化財協会報 特別号』第10号 香川県文化財保護協会 1971
- 10 井上勝之「香川町浅野八王子古墳調査報告」  
『文化財協会報』第58号 香川県文化財保護協会 1973
- 11 小竹一郎他『古高松郷土誌』古高松郷土誌編集委員会 1977
- 12 松本敏三「久米古墳・横穴式石室の一例」『教育香川』1977
- 13 廣瀬常雄『日本の古代遺跡8 香川』保育社 1983
- 14 山元敏弘・山本英之「香川県埋蔵文化財研究会発表資料」1992
- 15 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和55年度』香川県教育委員会 1981
- 16 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和58年度』香川県教育委員会 1984
- 17 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和59～62年度』香川県教育委員会 1988
- 18 『香川県埋蔵文化財調査年報 昭和63年度』香川県教育委員会 1989
- 19 『香川県埋蔵文化財調査年報 平成元年度』香川県教育委員会 1990
- 20 『香川県埋蔵文化財調査年報 平成2年度』香川県教育委員会 1991
- 21 『空港跡地遺跡発掘調査概報』平成3年度  
香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 1992
- 22 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 昭和63年度』1989
- 23 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成元年度』1990
- 24 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成2年度』1991
- 25 『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報 平成3年度』1992
- 26 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 東山崎・木田遺跡』  
香川県教育委員会 1992



第3図 道路周辺地形図

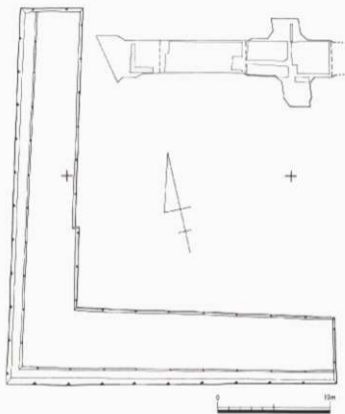


图4-10 遗址平面图① (A地区)

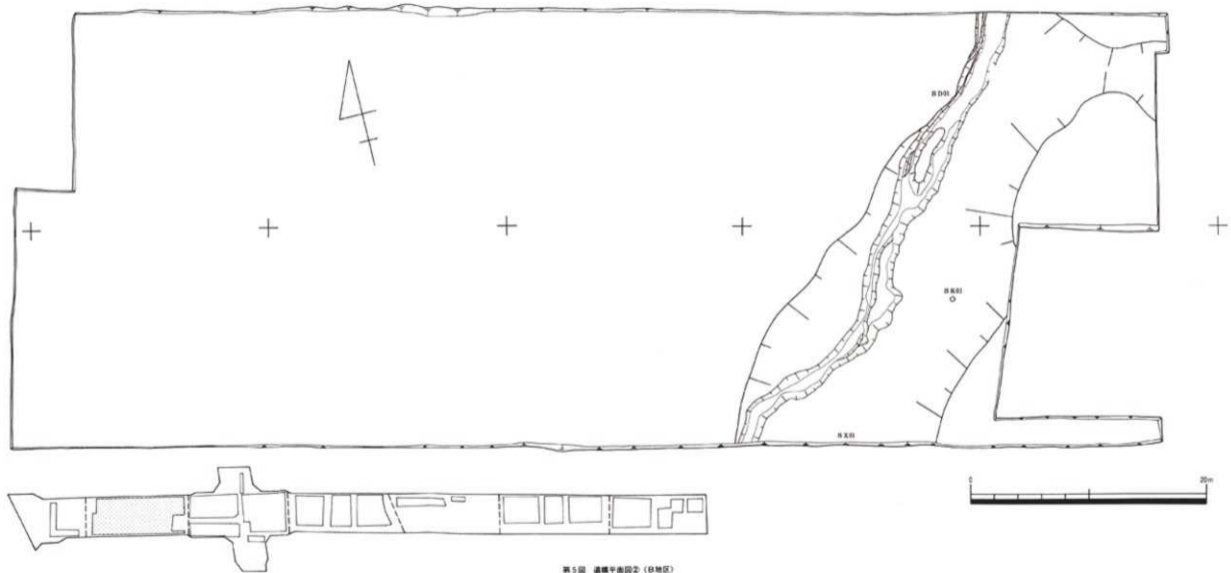
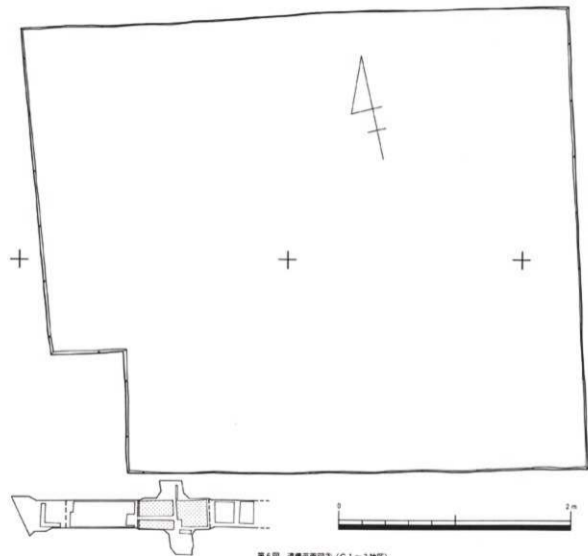
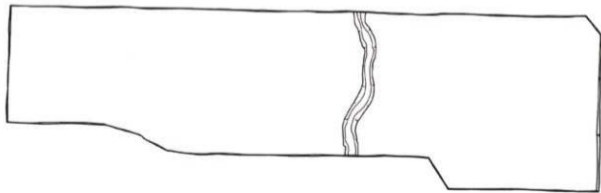
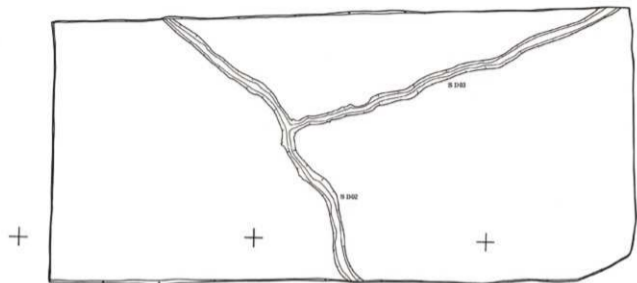
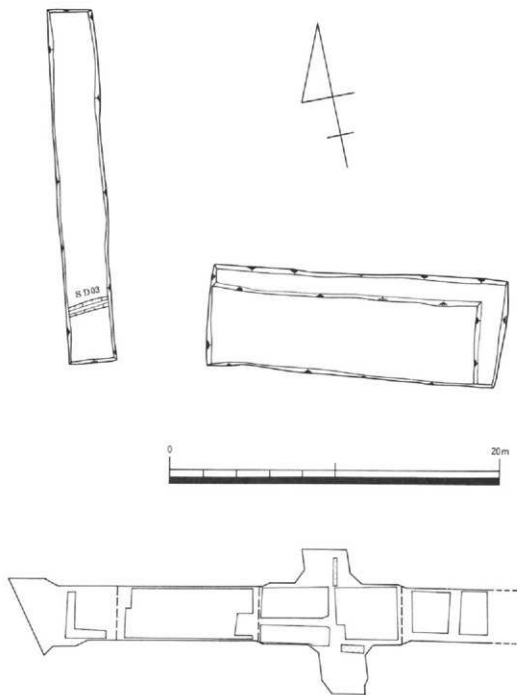


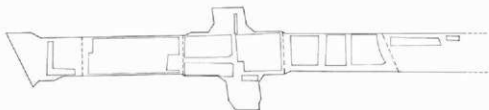
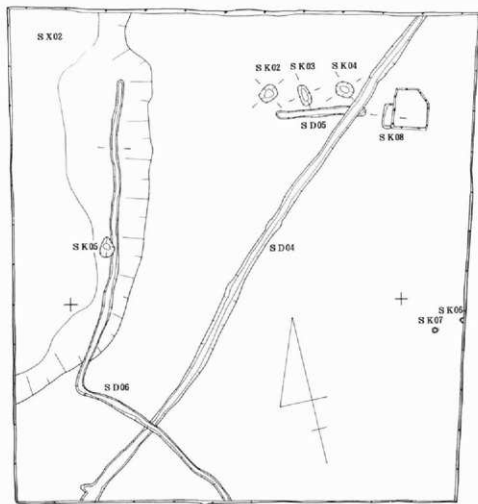
图5 遗址平面图②(台地区)



第6図 遺構平面図③ (C1-3地区)

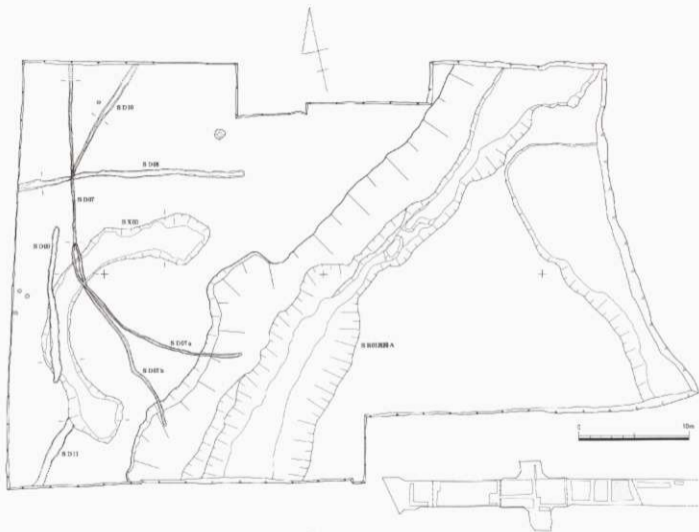


第7図 遺構平面図④ (C4・5地区)

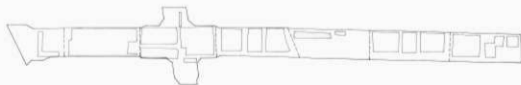


第8図 遺構平面図⑤ (D1地区)

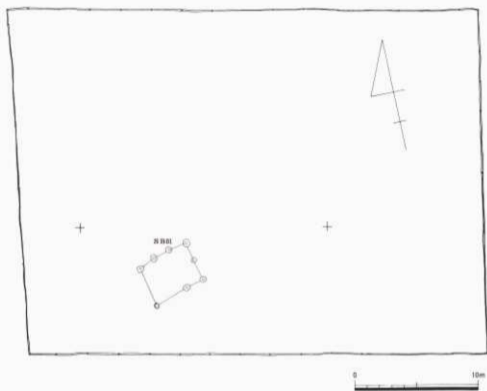




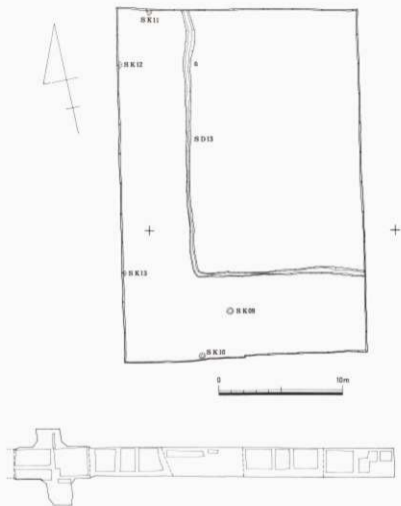
第9図 遺構平面図② (D2・3地区)



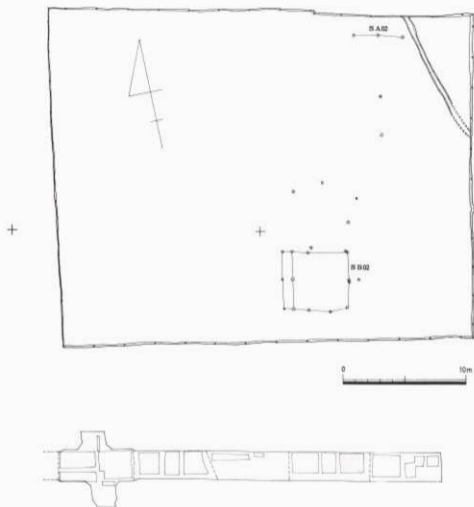
第10圖 透視平面圖( E 1・2地区)



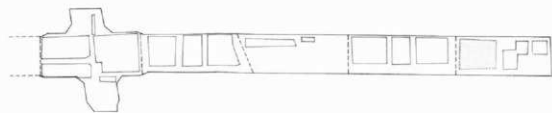
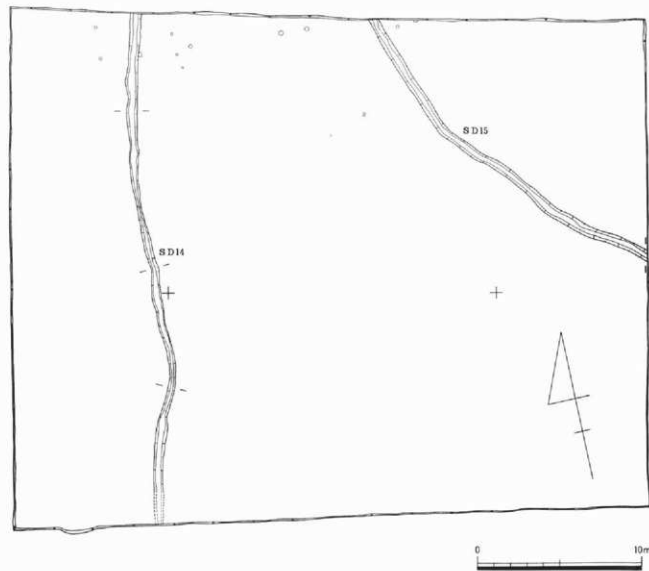
第11図 遺構平面図形 (F1地区)



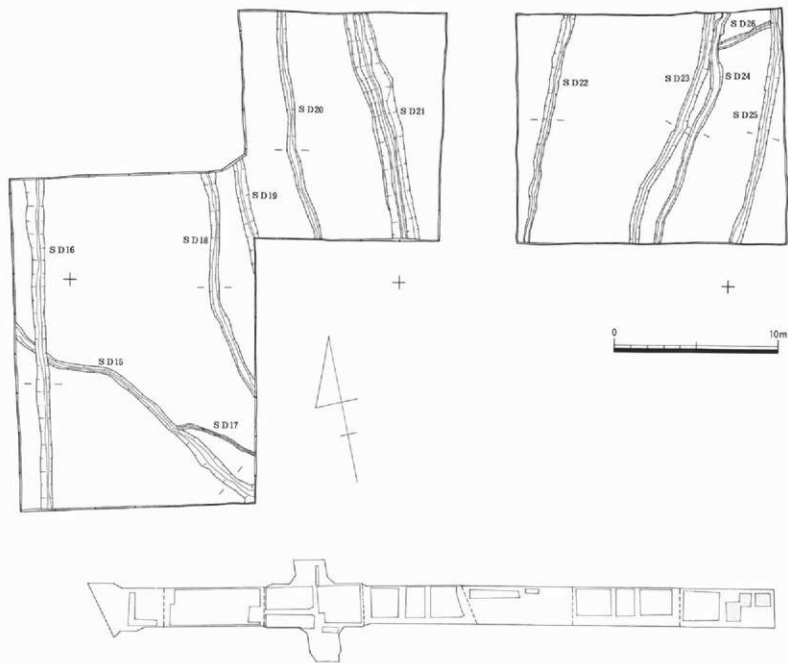
第12図 遺構平面図② (F2地区)



第17回 遺構平面図( F 3地区)



第14图 遺構平面図群 (G1地区)



第15图 遺構平面図様 (G2・3地区)